

# 食品加工事業の農業に対する後方連関効果に関する研究

—過疎地域における産業振興策の検討のために—

M082578 山根真明

## 1. 研究背景

1955年以降の高度経済成長期に、いわゆる太平洋ベルト地帯を中心に、重化学工業や造船業等が成長し、農山漁村から人々が労働力として移動して、農山漁村では、人口の急激な減少が生じ、社会生活の維持や、農林水産業の担い手不足などの過疎問題が発生した。

この問題を解決するためには、雇用を確保するための産業振興策が重要となる。過疎地域における産業振興策は、企業誘致などの外発的開発と、地域資源を活用した新事業の創出などの内発的産業形成があるが、外発的開発には企業誘致が思うように進まないことなどから、内発的産業形成が有力と考えられている。

## 2. 先行研究

内発的な産業形成は、「移出入のバランスをとること（移入代替・移出代替・地場産業の創出）」や、産業間の連関効果を強め、「地域内部の経済循環を拡大させること」などにより、地域経済の活性化を図ろうとするものである。しかし、開放経済体制の中で、原材料の調達を全て域内で行うことは困難であり、また、例えば、鹿児島県の芋焼酎製造業では、焼酎産業の成長の一方で、栽培農家の高齢化や減少などが原因で、原料サツマイモの供給不足が起こっており、連関効果の限界が指摘されている。

## 3. 問題提起・研究目的

連関効果に限界があるとしても、過疎地域の雇用や所得を確保するためには、連関効果の課題を明確にして、解決策を考えることが重要であると考えられる。

このため、過疎地域を対象に、食品加工事業の農業に対する後方連関効果（食品加工事業の成長が原材料を供給する農業の生産活動の拡大を誘発する効果）の阻害要因を明らかにし、その対策を考えたい。

## 4. 仮説設定・研究方法

農業の側にある後方連関効果の阻害要因は、先行研究では、農家の高齢化や減少、地力の問題が明らかにされているが、過疎地域では、人口減少・高齢化が進み、さらに、中山間地域が多いため農地不足や農業収入の少なさなど、広範に原因が考えられる。

このため、仮説は、農家の高齢化や減少に加え、農地の不足、農業収入の少なさなどとする。また、研究方法は、過疎化が進む中国四国地方の過疎市町村で、地域資源である農産物を活用して食品加工事業を営む3事例を抽出し文献及びヒヤリング調査を実施する。

## 5. 調査結果

馬路村農協（高知県馬路村）が取り組んでいるゆず加工事業は、売上が年32億円に成長し、ゆず栽培面積も増加しているが、原材料の15%は、村外から調達している。その理由は、農家の高齢化、山間地であることから農地の不足や、農業収入の少なさである。その対策として、農地法の改正を受け、農協が山を5ha造成して農地を確保し、入植者を募る予定である。

次に、農業生産法人（有）桜江町桑茶生産組合（鳥根県江津市桜江町）が取り組んでいる桑加工事業は、ここ9年で売上が年3億円に増加しているが、桑栽培面積27haの内7haは周辺市町で栽培されている。その原因は、町内に遊休地がないことである。江津市は、農業生産法人を定住希望者の受け皿にしており、担い手不足や高齢化の問題は見られなかった。

最後に、ひるぜんワイン（有）（岡山県真庭市（旧川上村））が取り組むやまぶどう加工事業は、売上は、20年間で約6倍の5千万円に増加しているが、やまぶどう栽培面積は約71%、7.5haに減少している。この原因は、農家の高齢化・減少や、農業収入の少なさなどである。真庭市では、農家を支援するため、ほ場の無償提供や、出荷助成を行っている。

## 6. 結論

食品加工事業の農業に対する後方連関効果の阻害要因は、先行研究が言う農家の高齢化等だけでなく、中山間地域であるため、農地不足や、農業収入の少なさなど、農業経営全般に及んでいることが分かった。

このため、過疎地域で地元の農産物と食品加工事業の連関効果を強めるためには、農業支援が必要であり、その対策は、改正農地法による農地造成や、定住対策と農業振興の一体的実施などが考えられる。

また、連関効果の阻害要因の背景には、中山間地域の農業の課題である小規模零細経営であることなどが考えられるため、農業基盤の整備や農地の担い手への集積なども対策として考えられる。さらに、農産物の供給を行う農家側の取組として、例えば、安定した収穫量確保のための農業技術の確立や有機栽培の導入、ブランド化など、食品加工事業者のニーズを満たす取組も重要であり、地域の政策主体である市町村が積極的に施策の推進を図ることが可能であると考えられる。

なお、今後の検討課題は、食品加工事業者側にある連関効果の阻害要因の分析や、NPOによる産業振興、フローだけでなくストック（資金量など）を踏まえた地域経済の発展方策の検討などがあげられる。